

# 運賃表示器アプリケーション Version 4 導入・操作マニュアル

2009/01 改訂版

運賃		0.1円単位 2009/01/22							
種別		1	2	3	4	5	6	7	8
		9	10	11	12	13	14	15	16
		17	18	19	20	21	22	23	24
		25	26	27	28	29	30	31	32

次は [ ] です 時刻 8:58

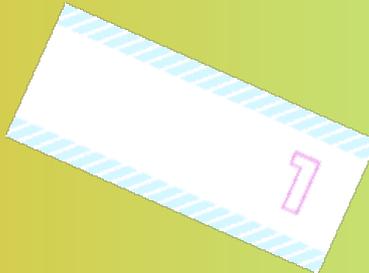
0.1円単位 2009/01/22													
種別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
運賃		25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
		37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
		49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
		61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72



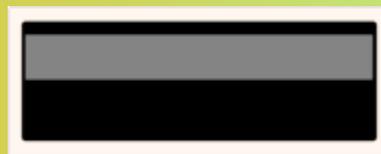
種別		1	2	3	4	5	6
運賃		7	8	9	10	11	12
		13	14	15	16	17	18
		19	20	21	22	23	24



運賃		0.1円単位			
種別		1	2	3	4
大人					
子供		1	2	3	4
小人					



運賃		0.1円単位							
種別		1	2	3	4	5	6	7	8
		9	10	11	12	13	14	15	16
		17	18	19	20	21	22	23	24
		25	26	27	28	29	30	31	32



へんぎん鉄道  
メモリアルスタジオ

# はじめに

以下の注意点、説明をよくお読みの上、運賃表示器アプリケーションを正しくお使いください。

※本マニュアルはできるだけ印刷してお手元に置かれることをおすすめします。印刷方法は、Adobe Readerのヘルプをご覧ください。なお、本マニュアルは予告なく修正・変更されることがありますのであらかじめご了承ください。



**警告**

アプリケーションや整理券プラグイン及び補助コンポーネントは改造しないでください。

・アプリケーションだけではなく、他のアプリケーションやWindows自体も不安定になることがありますので絶対にしないでください。



**注意**

データは、こまめにバックアップを取りましょう。

・せっかく作成したデータが、ある日突然破損したら！そんなときに備えてデータは定期的にバックアップをされることをお勧めします。

## 解凍ソフトは準備していますか？

ぺんぎん鉄道で配布しているアプリケーションのほとんどはLZH（LHA）形式と呼ばれる圧縮形式で提供しています。ダウンロードされる前に、お使いのコンピュータにこの形式を解凍（展開）できる解凍ソフトがインストールされているか、まずご確認ください。

## サポートについて

サポートはβ版・評価版を除き「ぺんぎん鉄道HP」内の「アプリサポート情報」にて随時行っております。ここには、ユーザーから報告された不具合等の情報を掲載しています。また、同時に対処方法も掲載されることがありますので、アプリの調子が悪いなと思ったらまず「アプリサポート情報」をご覧ください。その中でも掲載されていないような状態を発見した場合は、ぺんぎん鉄道までメールにてご連絡ください。

なお、ぺんぎん鉄道へ不具合等をお知らせいただく場合には、HPにある「アプリサポート情報」ページの一番上あたりに掲載しています「ぺん鉄システムレポート」をダウンロード・起動して、表示されたレポート内容（お使いのWindowsの種類や補助コンポーネントの情報が出力されます）をメールに貼りつけてお送りください。

# アプリケーションに関するお問い合わせについて

データの入力の方法、運賃表示器アプリケーションでの表示の方法等も遠慮なくお問合せください。

また、ペンぎん鉄道HP以外で運賃表示器アプリケーション本体やユーザーパネル、運賃データを配布しているサイトがあります。それぞれに配布しているアプリケーションやユーザーパネルは別製品で、情報用数字やパネルの整理券番号の表示設定等はそのアプリケーションに付属の説明書をご覧ください。また、特定の機種だけに特化した運賃データ（大人・小児/乗り継ぎ運賃表示等を特定の位置に表示するもの）もありますので適合する機種をご確認のうえ表示させてください。

## ペンぎん鉄道が答えできない質問等について

以下の項目に関する質問について、ペンぎん鉄道ならびにその関係者は一切お答えできませんのでご了承ください。

1.アプリケーション本体内部の情報や作り方に関するもの

2.補助コンポーネント内部の情報に関するもの

3.整理券プラグインの内部の情報に関するもの

※ペン鉄アプリHP上で公開配布しているもの、別製依頼の整理券プラグインに関する内部の情報はお教えできません。基本的にユーザー各自で製作することは出来ません。ペンぎん鉄道HPで配布していない仕様は別製で受け付けますので、メールにてご相談ください。

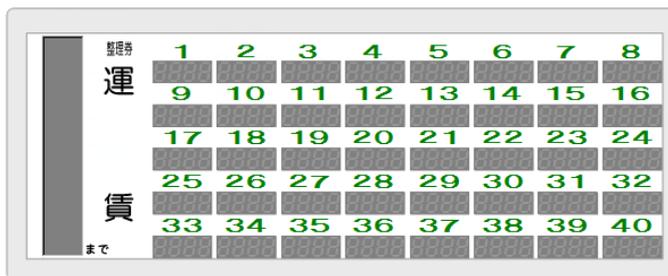
※「整理券プラグイン開発キット」には、描画の仕組みなど内部情報が含まれています。ペンぎん鉄道関係者が指定する条件を満たしているユーザーであれば、基本的なソースコードを提供します。ご希望の方はお問い合わせください。

4.他のユーザーが提供するデータの内容（データに付属のドキュメントに記載の作者へお問合せください）

5.データ作成の依頼（サンプル程度であればお引き受けすることもあります）

# アプリケーション各部の名称と機能

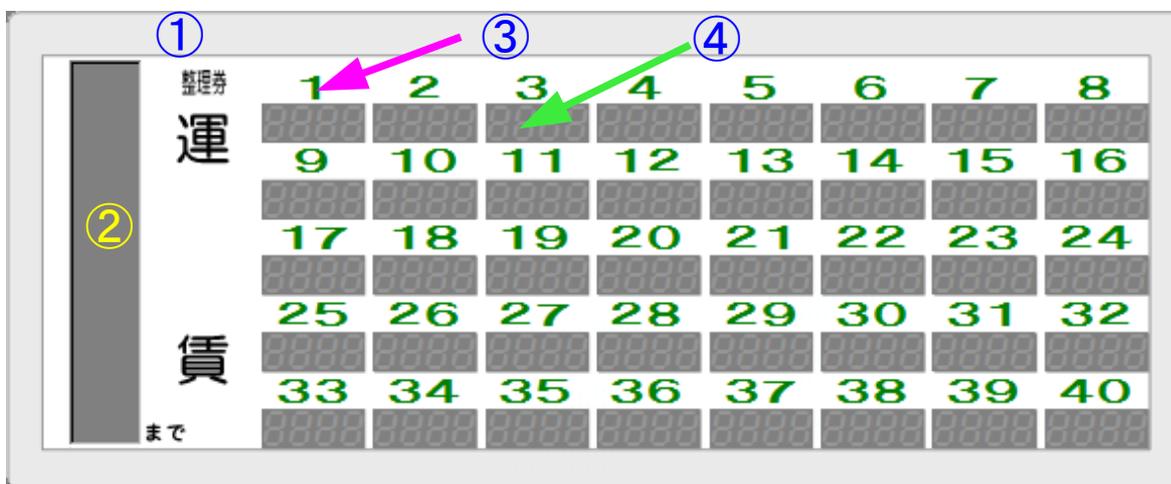
- ・本体ウィンドウ  
(右図の機種は、Type1/005)



- ・集中操作盤ウィンドウ



- ・本体ウィンドウ各部の名称と機能



## ①本体フレーム・パネル

本体ウィンドウの位置を調整したい場合には、この枠をつかんでドラッグします。位置は運賃表示器アプリケーション終了時に記憶され、次回起動したときには自動でその位置に表示します。また、「ユーザーパネル」によってパネルを交換することも出来ます。

## ②停名表示部品 (※この部品がない機種もあります)

停留所や駅名の表示を行います。この部分の文字色や背景色・書体を変更するには「集中操作盤ウィンドウ」内の「設定..」ボタンをクリックし「オプションダイアログ」で行います。

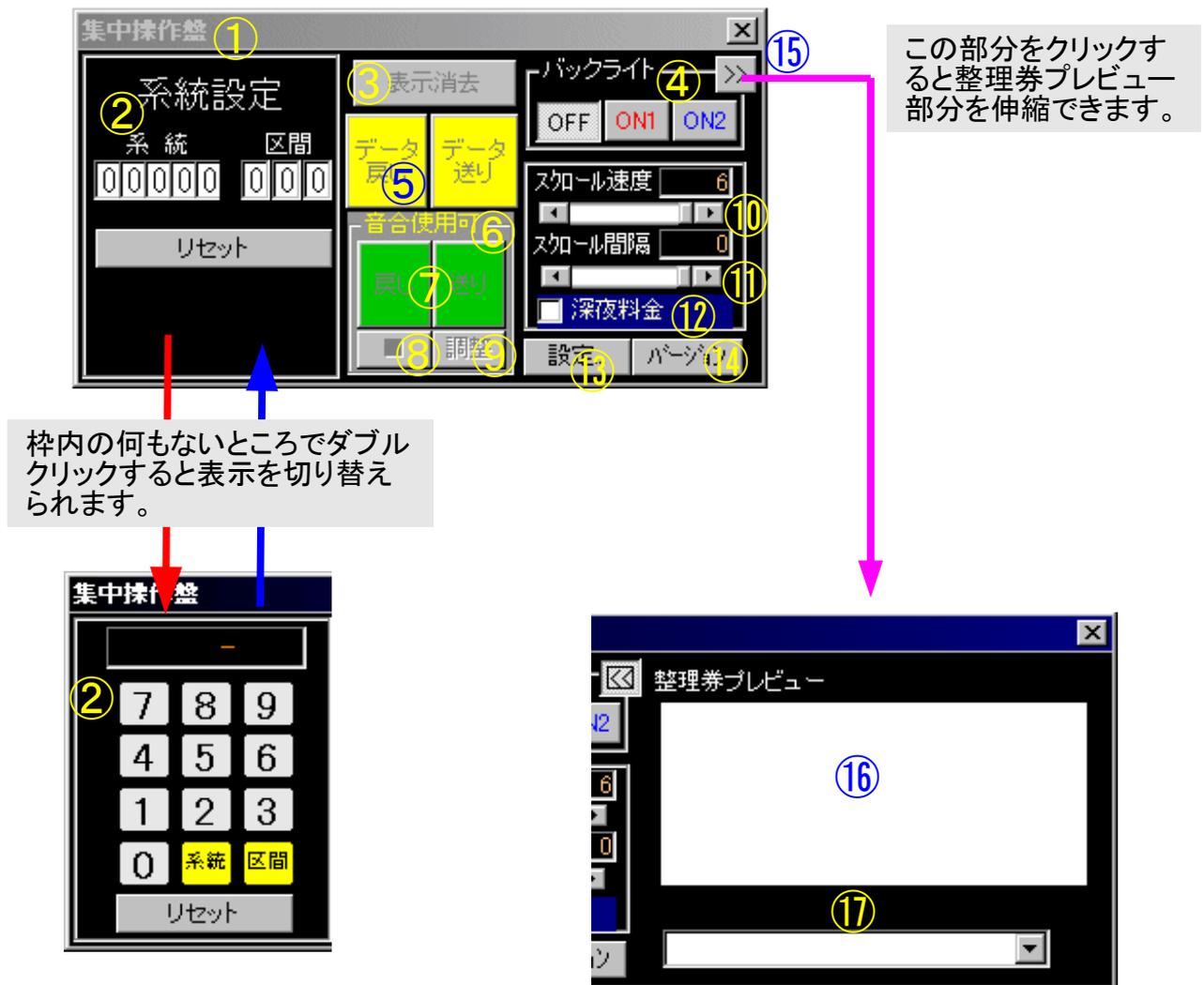
## ③整理券番号部品 (※初期設定で非表示になっている機種もあります)

整理券番号を表示します。ここの表示や文字色を変更するには、「集中操作盤ウィンドウ」内の「設定..」ボタンをクリックし「オプションダイアログ」→「パネルと整理券番号表示」項目で行います。

## ④デジタル部品 (コマ)

運賃や系統番号などを表示する部分です。桁をずらす・ゼロを頭につけるなどの設定は、各デジタル部品をダブルクリックして設定します。

・集中操作盤ウィンドウ各部の名称と機能



①集中操作盤フレーム

ウィンドウの位置を調整したい場合には、このタイトル部分をつかんでドラッグします。位置は運賃表示器アプリケーション終了時に記憶され、次回起動したときには自動でその位置に表示します。

②系統設定パネル

データを運賃表示器アプリケーションに取り込む役割をします。2通りの形状があり、何もないところでダブルクリックすると交互に切り替えられますのでどちらか好みのパネルにしてください。

③表示消去スイッチ

データを表示中に一時的に表示を消したい場合に使用します。

④バックライト（番号電照）スイッチ

運賃表示器アプリ本体の「整理券番号」部分の発光（バックライト）をON/OFFするものです。この部分の表示・色設定は、「集中操作盤ウィンドウ」内の「設定..」ボタン（⑬）をクリックし「オプションダイアログ」で行います。

#### ⑤「データ送り」「データ戻し」ボタン

「データ送り」ボタンはデータを次の区間（停留所）の表示に切り替えます。  
「データ戻し」ボタンはデータを前の区間（停留所）の表示に切り替えます。

#### ⑥音声合成放送使用可能ランプ

ここに「音声合成可」と表示された場合、放送データを用意することで、運賃切り替えと車内放送を同時に行うことができます。※Windows Vistaでは、現在のところ無効にしています。

#### ⑦「送り」「戻し」ボタン

放送と運賃切り替えを連動させるためのボタンです。上記放送機能が使用できない場合や系統設定時に、放送データを取り込まなかった場合にはクリックできません。

#### ⑧放送停止ボタン

放送を止めるときに使用します。

#### ⑨調整ボタン

放送の声（速さ・高さ）などの設定を行います。

※現バージョンでは、声の速さ・高さは次回起動時には反映されません。お手数ですが、毎回起動時にこの部分だけは設定を行ってください。

#### ⑩停名のスクロール調整

停名のスクロールは、ここで調整してください。左へスライドするほど速くなります。

#### ⑪停名スクロール時の開始間隔

停名が1回スクロールし終わってから、次のスクロールを開始するまでの間隔をミリ秒（1000ミリ秒＝1秒）単位で指定します。左へスライドするほど間隔が広がります。

#### ⑫「深夜料金」スイッチ

深夜バスなどで「倍額表示」にしたい場合には、ここをクリックすると表示される運賃が自動で、倍額表示されます。

#### ⑬設定ボタン

各種設定を行う「オプションダイアログ」を表示します。

#### ⑭バージョン情報ボタン

現在の運賃表示器アプリケーションのバージョンと機種名が表示されます。

#### ⑮「整理券プレビュー」部分の伸縮ボタン

ここをクリックすると「整理券プレビュー」部分を右に伸縮して表示・非表示にします。

#### ⑯「整理券プレビュー」

「整理券プラグイン」がこの部分に整理券を表示させます。右クリックするとビットマップとしてコピーできるメニューが表示されます。

#### ⑰会社名切り替え用コンボボックス

「整理券プラグイン」が複数の会社名印字（子会社等）をサポートしている場合には、ここにリストされた会社名へ切り替えることで、整理券にその会社名が印字されます。

# 運賃表示器アプリケーションの初期設定の流れ

---

- 1.補助コンポーネントのダウンロードとインストール (→8ページ)
- 2.アプリケーション本体やユーザーパネルのダウンロード (→9ページ)
- 3.サウンドのダウンロード (→9ページ)
- 4.整理券プラグインのダウンロード (→9ページ)
- 5.運賃データを入れるフォルダーを作成 (→10ページ)

※運賃データの作成につきましては、各ツールのマニュアルをご覧ください。

- 6.放送用データを入れるフォルダー作成 (→10ページ)

※放送用データの作成につきましては、各ツールのマニュアルをご覧ください。

- 7.運賃表示器アプリケーションの各設定を行う

- ・ 運賃データおよび放送用データのあるフォルダーを指定 (→11ページ)
- ・ 整理券番号、バックライト、ユーザーパネルの設定 (→12ページ)
- ・ デジタルの色や系統番号などの「情報用数字」の表示設定 (→13ページ)
- ・ 停名の文字色、背景色、書体の設定 (→14ページ)
- ・ サウンド設定 (→14ページ)
- ・ 整理券プレビューの設定 (→16ページ)

- 8.各デジタル部分の表示設定を行う (→17ページ)

- 9.系統設定し、データを表示させる (→18ページ)

※次回起動時からは、基本的に9の手順だけとなります。

# 1.補助コンポーネントのダウンロードとインストール

「ペン鉄アプリ補助コンポーネント」(以下、補助コンポーネント)とは？

運賃表示器アプリケーションなど、ペンぎん鉄道で配布しているアプリケーションのほとんどは単独では動作しません。補助コンポーネントをインストールすることによりはじめてアプリケーションとしての機能を発揮します。ペンぎん鉄道で配布しているアプリケーションをダウンロードする前に、1回だけこの作業を行う必要があります。一度インストールすると、以下の状況のとき以外は何回もインストールする必要はありません。

- ・お使いのパソコンのWindows自体を再インストールしたとき
- ・ペンぎん鉄道関係者から指示があった場合

「ペン鉄アプリ補助コンポーネント」をペンぎん鉄道のサイトよりダウンロードしてください。ダウンロードしたファイルは「PH\_FUL.msi」という名前になっています。これをダブルクリックするとインストールが開始されますので、画面の指示に従ってください。

## インストール時の注意点

・旧バージョン(Ver3)の補助コンポーネントがインストールされている場合

この場合には事前に旧バージョン(Ver3)の補助コンポーネントは、アンインストールしてもしなくてもかまいません。Ver4用の補助コンポーネントにはVer3で使用されるファイルも含まれていますので、これをインストールしてもVer3のアプリケーションは動作可能です。

※確認：WindowsNT系(NT4・2000・XP・Vista)では、「管理者権限」で実行できる環境でないとインストールできないことがあります。1台のパソコンを複数人で使用している場合(家族間・学校・会社)などは特にご注意ください。詳細はコンピュータの管理者へお問い合わせください。

※注意：ダウンロード→ダブルクリックしてもインストールが開始されないときには、Windows95/98/NT4では、別途「Windowsインストーラ」が必要な場合があります。この入手方法などは、Microsoftのダウンロードサイトをご覧ください。ペンぎん鉄道へお問い合わせください。

## ※インストールされるフォントについて

補助コンポーネントのインストールでは、運賃表示器アプリケーションに必要な専用のフォントが7種類インストールされます(以下参照)。これらは、「ユーザーパネル」などをデザインする際に、任意のソフト上で使用することを許可します。ただし、他のソフト上でこれらフォントを使用したことによる表示の不具合・事故等は一切責任を負いませんのでご了承ください。また、お使いのソフトによっては、フォントの一覧にフォント名が正しく表示されない(空白になることが多い)場合もありますのでご了承ください。

### ◎ファイル名

- ・Memorial1.ttf
- ・M\_NumC1.ttf
- ・M\_NumC2.ttf
- ・M\_Num5.ttf
- ・M\_NumP1.ttf
- ・M\_DegitA.ttf
- ・M\_DegitB.ttf
- ・M\_DegitC.ttf

### ◎フォント名(用途)

- メモリアル数字書体平体 (Type1・3の整理券番号表示に使用されます)
- M\_NumC1 (Type1・3のC型の整理券番号表示に使用されます)
- M\_NumC2 (Type2・4のC型の整理券番号表示に使用されます)
- M\_Num5 (Type5・6の整理券番号表示に使用されます)
- M\_NumP1 (Type2のプラズマ風仕様の整理券番号表示に使用されます)
- M\_DegitA (Type1・3のデジタル用数字に使用されます)
- M\_DegitB (Type2・4のデジタル用数字に使用されます)
- M\_DegitC (Type5・6のデジタル用数字に使用されます)

## 2.アプリケーション本体やユーザーパネルのダウンロード

---

ぺんぎん鉄道のサイトより、アプリケーションやユーザーパネルをダウンロードします。

運賃表示器アプリケーションVer4では、「本体（基本機種）」と「ユーザーパネル」に分けられています。基本機種にはあらかじめパネルが埋め込まれており、そのパネルの仕様で十分であれば「ユーザーパネル」は不要ですが、一部表示の違い（例：「まで」→「次は・です」）やパネル色が異なるものは、別途用意されている「ユーザーパネル」と交換して変更することが出来ます。

## 3.サウンドのダウンロード

---

システム設定のときやデータの送り戻し時に鳴らすサウンドを準備します。  
サウンドが何種類必要かは、ユーザー各自の設定により異なります。

※参考：Ver4では4項目の場面で最高8パターンのサウンドを個別に設定できます。  
各場面でのサウンドの設定は14ページよりご覧ください。

サウンドはぺんぎん鉄道のサイトで用意しているものをダウンロードして頂くか、各自で用意してください。サウンドファイルの配置場所は特に指定しませんが、なるべくアプリケーションと同じ位置にまとめて置くようにしてください。

サウンドファイルは、従来のWAVEサウンド(\*.wav)のほかにMIDIシーケンス(\*.mid)もサポートしています。MP3形式は「サービスリリース2（SR2）」からサポートしています。

## 4.整理券プラグインのダウンロード

---

「整理券プレビュー機能」を使うには、「整理券プラグイン」もダウンロードする必要があります。「整理券プラグイン」はぺんぎん鉄道のサイトで用意しているものをダウンロードできます。「整理券プラグイン」の配置場所は特に指定しませんが、なるべくアプリケーションと同じ位置にまとめて置くようにしてください。

※参考：整理券プラグインはユーザーパネルと違い、各自で編集・調整することは出来ません。  
整理券プラグインの別製も可能な範囲で受け付けますので、必要な場合はぺんぎん鉄道へお問い合わせください。

## 5. 運賃データのフォルダーをつくる

運賃データを入れるフォルダーを作成してください。以後、作成した運賃データをこのフォルダーへ入れるようにします。フォルダーの作成場所や名前の付け方は特に指定しません。

※運賃データの作成につきましては、各ツールのマニュアルをご覧ください。

※重要：運賃データファイルで使用できるファイル名は1.hy3～99999.hy3の間でなければ、運賃表示器アプリケーション本体が運賃データとして認識しません。

※重要：Ver4で使用できる運賃データ形式はVer3と同じ(\*.hy3)です。Ver2までの運賃データ(\*.hyo)は、Ver4ではそのまま使うことが出来ません。ペンぎん鉄道HPで配布している「データバージョンUPコンバータ」を使いまとめて変換するか、最新のデータ開発ツールで一つ一つ開いて、調整した後保存しなおします。

## 6. 放送用データのフォルダーを作成する

音声合成放送機能を使用する場合には、「放送用データ」(\*Tp.csv)も必要です。フォルダーを作成し、この中へ放送用データを入れるようにします。フォルダーの作成場所や名前の付け方は特に指定しません。

※放送用データの作成につきましては、各ツールのマニュアルをご覧ください。

※お使いのパソコン環境が「Windows Vista」の場合は、音声合成放送機能は使用できませんのでご注意ください。また、音声合成放送機能を使用しないのであれば、ここの準備は不要です。

※確認：音声合成放送機能が使用できるかどうかは、アプリの「集中操作盤ウィンドウ」の中央付近にある「音合使用可」の文字が表示されているかで決まります。「音合使用不可」という表示であれば、お使いのパソコンに音声合成エンジン「SAPI4」がインストールされていません。このエンジンをダウンロード・インストールする方法は、本マニュアルの「付録A.音声合成エンジンの入手とセットアップ」(19ページ)をご覧ください。

※重要：放送用データで使用できるファイル名は、1Tp.csv～99999Tp.csvの間でなければ、運賃表示器アプリケーション本体が放送用データとして認識しません。さらに、運賃データとファイル名の数字部分をそろえておく必要があります。たとえば1025系統の運賃データは「1025.hy3」、それに対応する放送用データは「1025Tp.csv」とする必要があります。

※重要：Ver3において別製で対応していた放送用データは、Ver4ではそのまま使うことが出来ません。ペンぎん鉄道HPで配布している「放送用データバージョンUPコンバータ」を使いまとめて変換するか、メモ帳などのテキストエディタ、Excel・OpenOffice Calcなどの表計算ソフトで開いて、3列目(C列)に「運賃切替前サウンド指示信号」のデータを追加した後保存しなおします。必要ないのであれば追加した列には全部の行に「0」と入れておきます。

## 7.運賃表示器アプリケーションの各設定を行う

運賃表示器アプリケーションを起動し、「集中操作盤ウィンドウ」の「設定...」ボタン（右図青丸部分）をクリックし、「オプションダイアログ」を表示します。

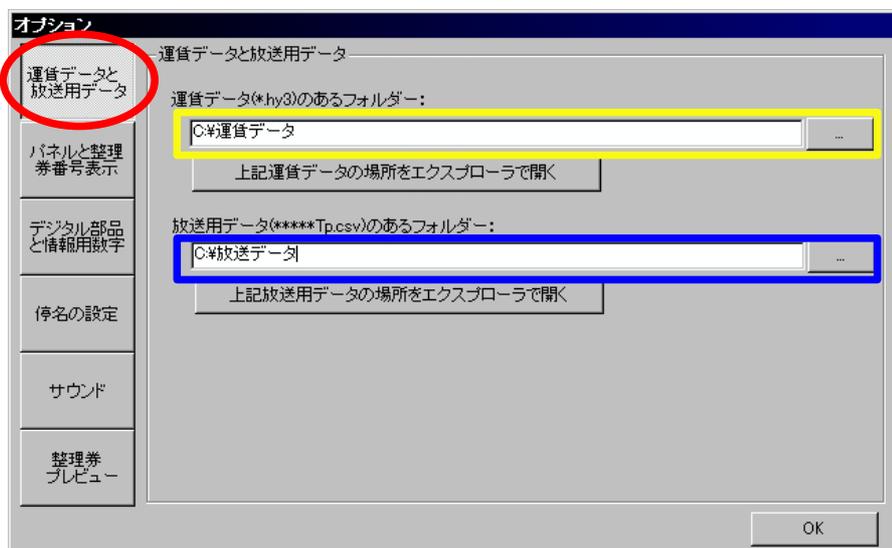


### ・運賃データおよび放送用データのあるフォルダーを指定

1.赤丸部分をクリックします。

2.黄色枠部分の右側にある「...」ボタンをクリックし、出てきたダイアログで運賃データのあるフォルダーを指定します。

3.青色枠部分の右側にある「...」ボタンをクリックし、出てきたダイアログで放送用データのあるフォルダーを指定します。※放送が必要ない場合はこの設定は不要です。



・整理券番号、バックライト、ユーザーパネルの設定(設定できない機種もあります)

1.右図赤丸部分をクリックします。

※パネルに整理券番号の数字を自動で入れたい場合は、手順2～4の設定を行います。

2.黄色枠部分にチェックを入れます

※ユーザーパネルや内蔵パネルに直接整理券番号が記入されているときにはこのチェックをはずして、パネルに整理券番号が表示されないようにしてください。

3.青色枠部分でバックライトの文字色を指定してください。

4.緑枠部分は0番表示や「なし」などの表示にするとときに選択します。

その下の「数字が1桁の番号に0を付け足す」にチェックを入れると、整理券番号が1桁(0～9)の部分が「00～09」という表示になります。

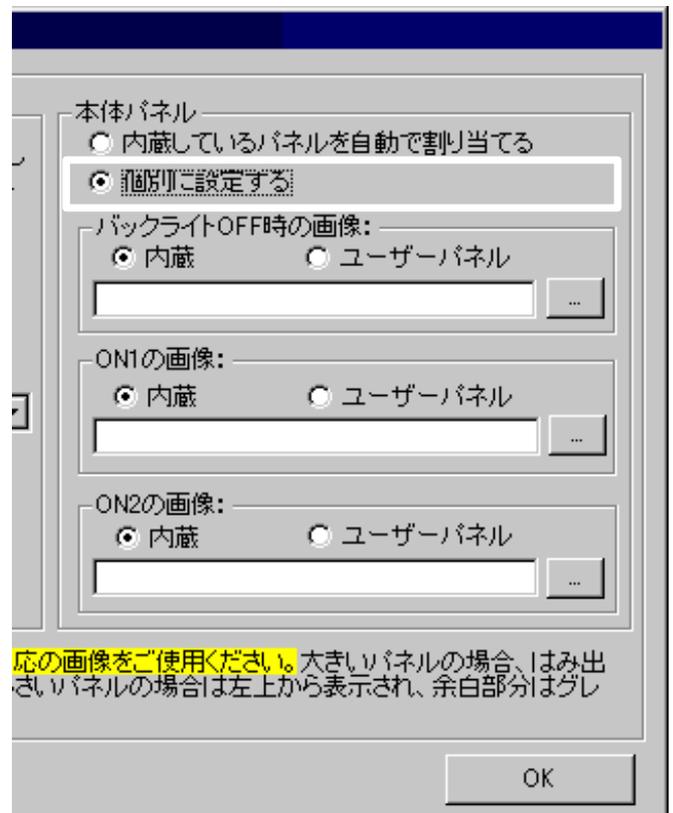
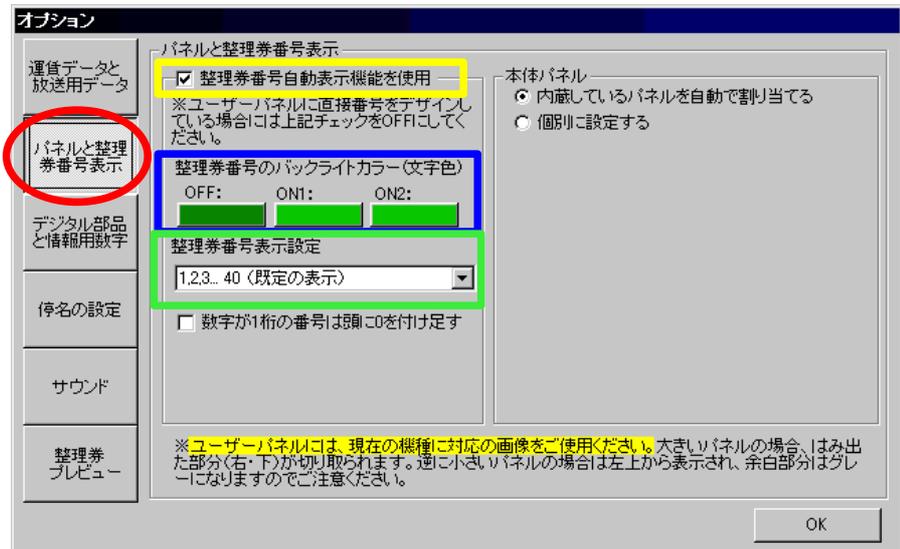
5.ユーザーパネルを使用する場合には、右図白枠部分「個別に設定する」を選択します。

※ユーザーパネル用のオプション項目がさらに表示されます

各項目の「ユーザーパネル」という部分をチェックし、その下にユーザーパネルのファイル名を設定してください。

ユーザーパネルが1枚しか用意されていないものは、各項目に同じファイル名を設定します。

ユーザーパネルにあらかじめ整理券番号が記入されたものはバックライトの色違いで2枚(OFF/ON1用)あるいは3枚(OFF/ON1/ON2用)が用意されているものがありますので、ユーザーパネルに付属の説明書のとおり設定してください。



※注意：「ユーザーパネル」には、各機種に適合するものを使用してください。

## ・デジタルの色や系統番号などの「情報用数字」の表示設定

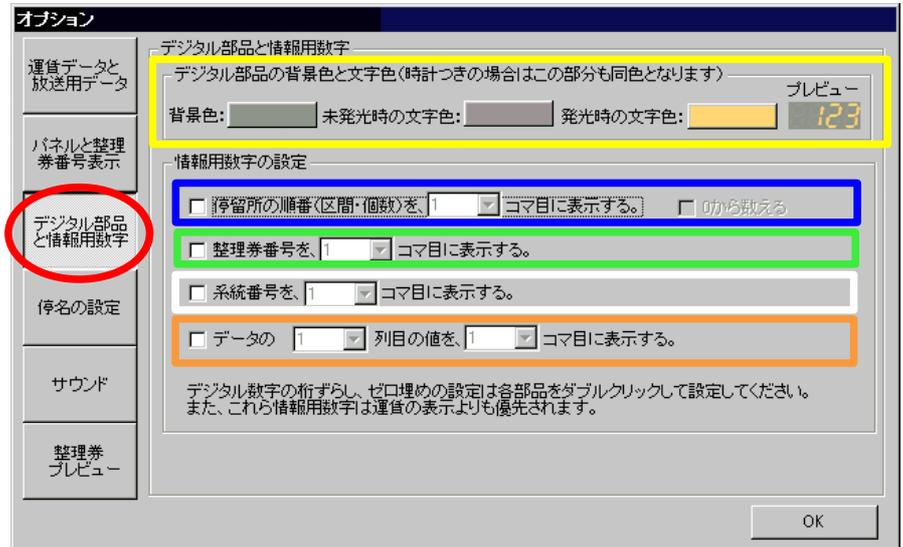
デジタルの色や整理券番号や系統番号、停留所の順番などの「情報用数字」の設定を行います。

※「Eタイプ」と呼ばれる機種では、この部分が異なります。「付録D：Eタイプ追加説明」(24ページ)を合わせてご覧ください。

1.右図赤丸部分をクリックします。

2.黄色枠部分（デジタルの色）の設定を行います。

※各ボタンをクリックすると「色の選択」ダイアログが開きますので好みの色に設定してください。一番右の「プレビュー」用のデジタルが変化しますので、それをみながら確認してください。



3.停留所の個数・順番表示(青色枠部分)

表示したい場合にはチェックを入れます。その横にあるコンボボックスでどのコマに表示させるのが設定してください。また、一番右のチェックを入れると、1からではなく「0」から数えて表示します。

4.整理券番号表示(緑色枠部分)

表示したい場合にはチェックを入れます。その横にあるコンボボックスでどのコマに表示させるのが設定してください。なお、この項目を表示させたい場合は、あらかじめ運賃データの「整理券番号列」に整理券番号を入れておく必要があります。

5.系統番号番号表示(白色枠部分)

表示したい場合にはチェックを入れます。その横にあるコンボボックスでどのコマに表示させるのが設定してください。なお、コマの桁数に対して系統番号の桁数のほうが多い場合は、あふれた部分を切り取って表示します。(例：3桁のデジタルに「1530」と表示しようとした場合→「530」という表示になります)

6.運賃データの特定の列の内容を、指定したコマへ表示させる(オレンジ枠部分)

表示したい場合にはチェックを入れます。その横にある1つ目のコンボボックスで、運賃データのどの列かを指定します。さらに2つ目のコンボボックスで、どのコマに表示させるのが設定してください。

※注意：運用中（すでに運賃表示を行っている状態）に、これらの設定を行った場合は、次（前）の区間に切り替えたときから有効となります。

※デジタルの桁をずらして表示させる、0をつける・0で埋めるなどの処理は、各デジタル部品をダブルクリックして個別に設定します。「8.各デジタル部分の表示設定を行う」(17ページ)をご覧ください。

## ・停名表示の設定(この部品がない機種は無視してください)

停名表示の色や書体の設定を行います。

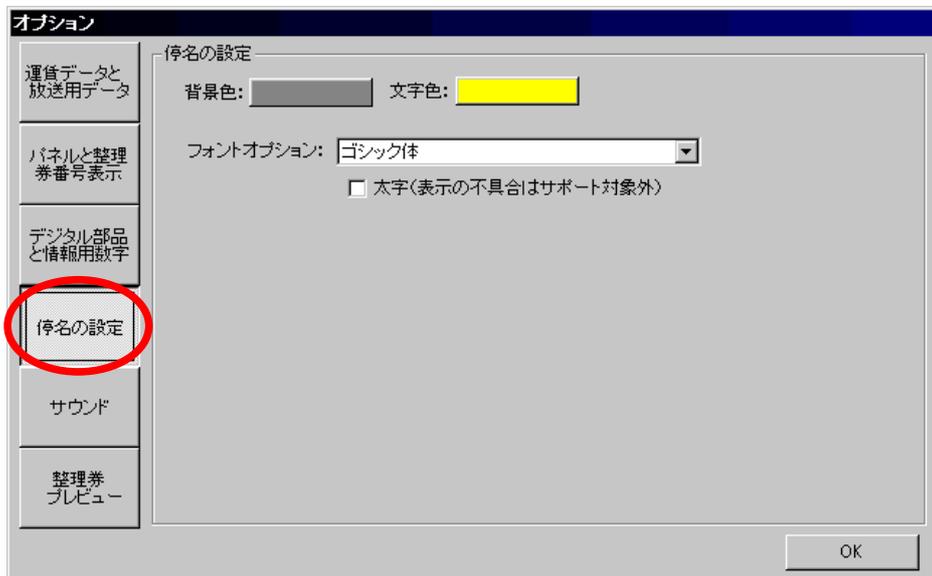
※Type4のサービスリリース(SR)1以降、Type3のSR2以降、Type6、停名表示器の全機種ではこの部分に「次は」の自動表示設定項目が追加されています。この部分の設定方法は「付録E：停名部品へ「次は」の自動表示を設定する」(25ページ)を合わせてご覧ください。

1.右図赤丸部分をクリックします。

2.停名の背景色・文字色の設定を行います。

※各ボタンをクリックすると「色の選択」ダイアログが開きますので好みの色に設定してください。

3.フォントオプションの設定表示の際の書体を選択してください  
既定は「ゴシック体」です。  
その下の「太字」チェックボックスをONにすると文字は太字で表示されます。



## ・サウンド設定

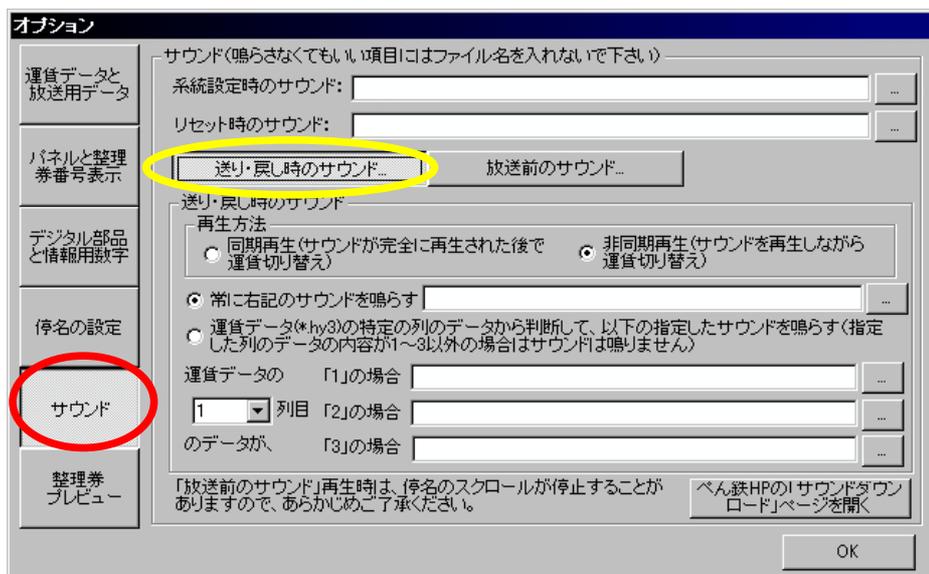
各場面で鳴らすサウンドの設定を行います。

1.右図赤丸部分をクリックします。

2.系統設定時およびリセット時に鳴らすサウンドを設定します。

※各項目の「...」ボタンをクリックすると「ファイルの選択」ダイアログが開きますのでWAVE形式かMIDI形式のファイルを設定してください。

※サービスリリース2(SR2)適用機種からはMP3形式も指定できます。



3.右図黄色丸部分をクリックし、送り戻しの際のサウンドを選択してください。

詳細は次ページより記載しています。

## ★送り・戻し時のサウンド

### ◎再生方法

#### ・同期再生

これを選択するとサウンドを完全に再生してから運賃切替に移ります。

#### ・非同期再生

これを選択するとサウンドが再生途中でも、すぐに運賃切替に移ります。

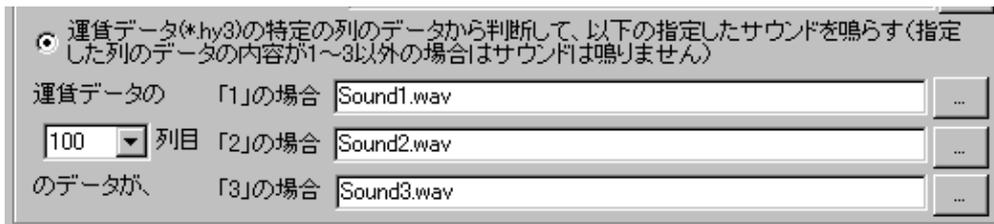
#### ・常に右記のサウンドを鳴らす

ここにチェック入れてサウンドファイルを指定すると、常に送り・戻し時にサウンドを再生します。

#### ・運賃データ(\*.hy3)の特定の列のデータから判断して以下の指定したサウンドを鳴らす。

これを選択すると、運賃データの指定した列の内容を判断し、条件に振り分けたサウンドファイルを鳴らします。データの指定した列の内容が「1」「2」「3」の場合の時に鳴らすサウンドファイルを指定します。

例：運賃データの100列目に判断用の数字を入れておいた場合の設定はこうします。



## ★放送前のサウンド

※音声合成放送機能が有効な場合のみ機能します。

右図青丸部分をクリックします。

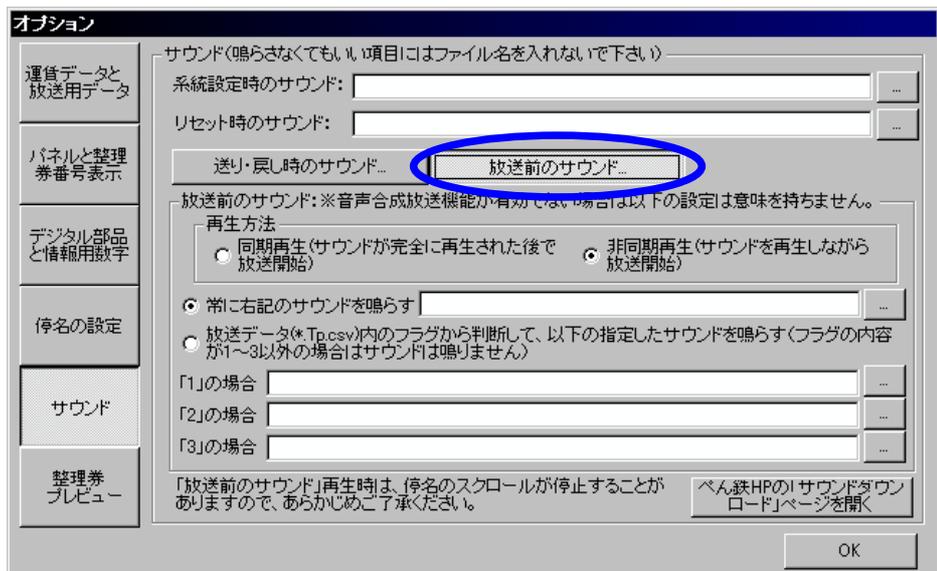
### ◎再生方法

#### ・同期再生

これを選択するとサウンドを完全に再生してから放送に移ります。

#### ・非同期再生

これを選択するとサウンドが再生途中でも、すぐに放送に移ります。



## ・常に右記のサウンドを鳴らす

ここにサウンドファイルを指定すると、放送時常にサウンドを再生します。

## ・放送用データ(\*Tp.csv)内のフラグから判断して以下の指定したサウンドを鳴らす。

これを選択すると、放送用データのサウンド指定列の内容を判断し、条件に振り分けたサウンドファイルを鳴らします。データの指定した列の内容が「1」「2」「3」の場合の時に鳴らすサウンドファイルを指定します。

## ・整理券プレビューの設定

集中操作盤に表示する整理券プレビューの設定を行います。

1.右図赤丸部分をクリックします。

2.「整理券プレビュー機能を有効にする」のチェック（黄色丸部分）をクリックします。

※整理券プレビュー機能を使わないのであればこのチェックをはずしておきます。

3.整理券プラグインの設定を行います  
上記でチェックをONにすると、さらに設定項目が表示されます。（右図）  
整理券プレビューに整理券を表示させるのは「整理券プラグイン」です。

整理券プラグイン(\*.4SP)を選択して設定します。選択したファイルが整理券プラグインと判断された場合には青枠部分にプラグインの具体的な仕様が表示されます。

## 4.日付の設定

※整理券プラグインが日付の表示をサポートしているときのみ有効です。有効かどうかは上図青枠部分に「日付の印字---->可能」と表示されているかで判別できます。

### ・システムの日付を使用

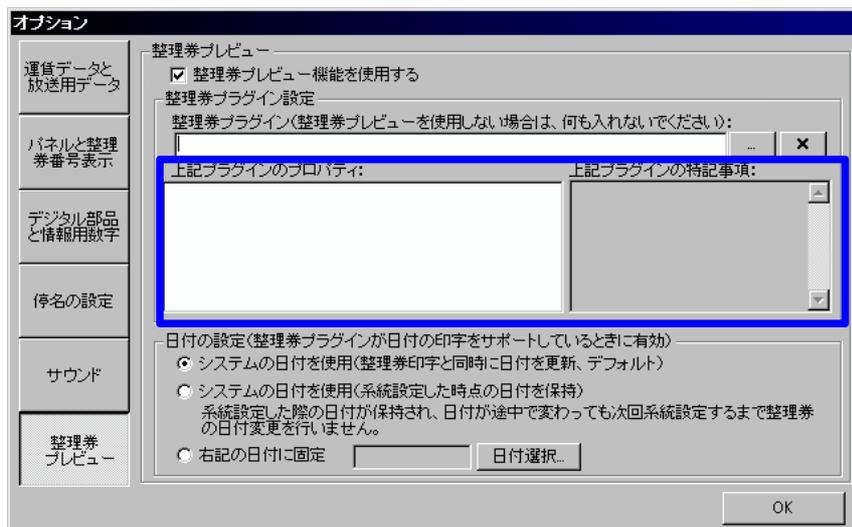
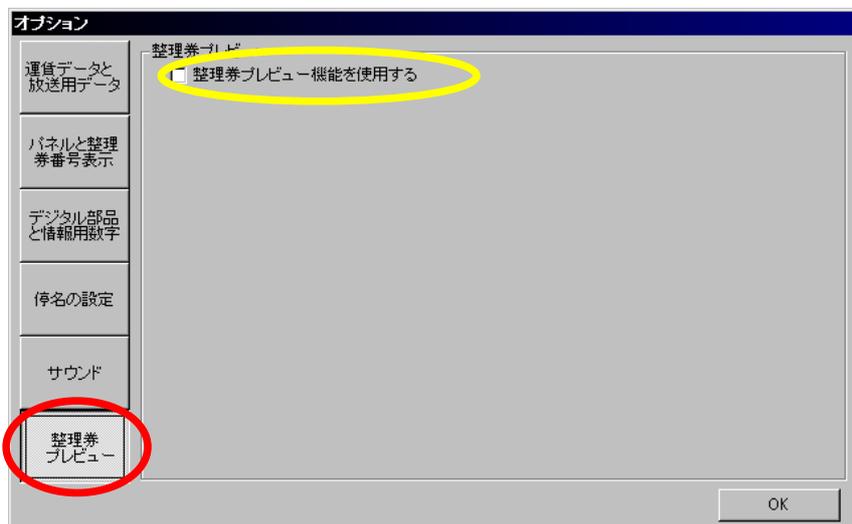
現在のパソコンの日付を整理券に印字します。

### ・システムの日付を使用(系統設定した時点の日時を保持)

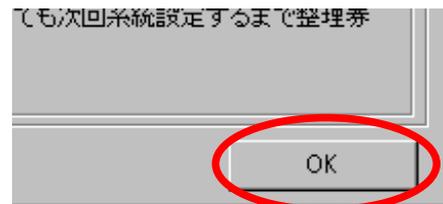
深夜など日付が変わる間の運用を考慮して、パソコンの日付が変わっても、次に系統設定するまで日付を保持します。

### ・右記の日付に固定

印字する日付を固定します。「日付選択...」ボタンをクリックするとカレンダーが出てきますので、常に印字させたい日付を設定してください。



◎以上で「オプションダイアログ」での設定を終わります。  
完了したら「オプションダイアログ」の右下にある「OK」をクリックします。



## 8.各デジタル部分の表示設定を行う

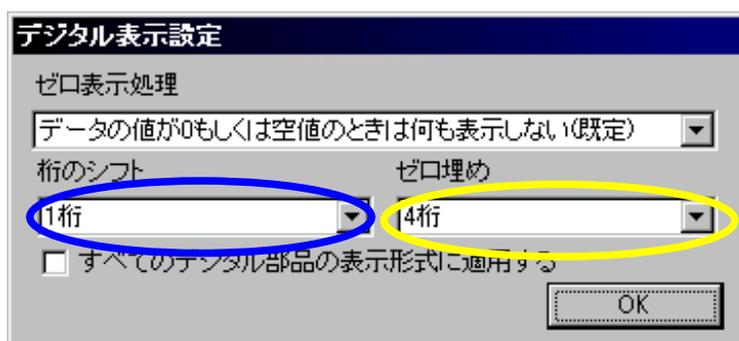
本体の運賃を表示するデジタル部品（コマ）には個々に表示設定ができます。たとえば、整理券番号表示部分に「1」ではなく「01」と表示したい場合や、1桁ずらすなどの設定もできます。

1.表示を変更したい、本体のデジタル部品をダブルクリックします（下図赤丸部分）。  
デジタル表示設定ダイアログが開きます。

2.ここでは、例として、40コマ目を「1桁シフト」させ、かつ、「4桁未満の場合は0をつける」という設定にしてみます。（青丸・黄色丸部分）



変更したい部分を  
ダブルクリック



設定したら「OK」をクリック



変更後の表示（右図）

※データ表示中の場合は「データ送り」または「データ戻し」を一度押すと有効になります。

## 9. 系統設定し、データを表示させる

実際にデータを表示させてみます。

1. 「集中操作盤ウィンドウ」にある、系統設定パネルで系統を設定します。

「ダイヤル式」の場合

各数字部分を一旦クリックして、キーボードの数字キーを押します。マウスのホイール機能が使える場合には各位置でホイールを任意の数字になるまでまわして、確定するためにその数字をクリックします。8000.hy3というデータを表示させたい場合には以下のように数字を合わせます。数字は青色反転していなければなりません。設定したら「リセット」ボタンをクリックします。

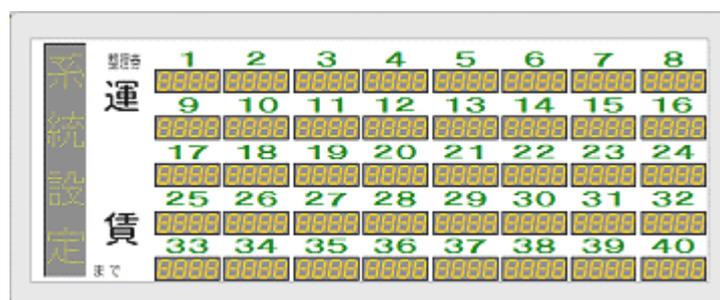


「ボタン式」の場合

「系統」ボタンを一旦クリックして各数字ボタンを順にクリックしてゆきます。途中で間違えた場合は、再度「系統」ボタンをクリックして入力しなおしてください。8000.hy3というデータを表示させたい場合には右図のように数字を設定します。設定したら「リセット」ボタンをクリックします。



「リセット」ボタンをクリックすると、データが読み込まれた場合には右図のように停名部分に「系統設定(系統選別中)」運賃表示のデジタル部分の全部には、「8888」が数秒間表示されます。その表示が終わると、データの一番最初の行(系統名称)の表示が行われます。



あとは、「データ送り」「データ戻し」各ボタン(黄色のボタン)で表示を進めたり、戻したりしてください。音声合成放送機能をお使いの場合は、「送り」「戻し」(緑色のボタン)で放送と運賃データを連動させて操作できます。

以上で、説明は終了です。不明な点は、ペンぎん鉄道までメールでお問い合わせください。

# 付録A.音声合成エンジンの入手とセットアップ

運賃表示器アプリケーションVer4では「音声合成放送機能」が標準で組み込まれています  
が、これを実現するためには別途「Microsoft Speech API 4(以下SAPI4)」をインストール  
する必要があります。運賃表示器アプリケーション起動時に「音合使用不可」と表示されてい  
る場合や、「音合使用可」とでているにもかかわらず日本語のエンジンがインストールされて  
いなくて、わけの分からない放送をしてしまうという場合は、以下の手順でダウンロード・イ  
ンストールしてください。(Windows Vistaではサポートしていませんのでご注意ください)

1.Microsoftのサイトへアクセスする。

SAPI4はMicrosoft（米国）より提供されています。以下のサイトへアクセスします。

<http://www.microsoft.com/msagent/downloads/user.asp#tts>

※英語のサイトなので、以下に図を入れながら説明します。

2.上記へアクセスしたら、下図と同じ場所までスクロールします。

これは、日本語を話すためのエンジンです。（女声「Naoko」と男声「Kenji」が含まれ  
ています）

下図に書いてある選択肢にして、ダウンロードを実行します。「ダウンロード先」はデ  
スクトップで構いません。

## Text-to-speech engines:

These text-to-speech engines provide speech **output** capabilities for Microsoft Agent and the Agent Character Editor. In the list below, select one of the available text-to-speech engines, then click the download link.

Note, that you must also install the [Agent language component](#) for the specified language, except for the American and British English engines.

Further note, that these text-to-speech engines are licensed *only* for use in Microsoft Agent enabled applications and Web pages with a visibly displayed Microsoft Agent character.

Lernout & Hauspie® TTS3000 TTS engine - Japanese (3 MB exe)

 [Download selected engine](#)

↑ Japaneseを選択

←確認したらここをクリックし、ダウンロード

Can't find a language? You may want to check out [other third-party speech engines](#) that support Microsoft Agent. They may have the language or voice that you're looking for.

- 3.次に、下図と同じ場所までスクロールします。これは、ベースのランタイムです。  
下図に書いてある「Download the ...」部分をクリックして、ダウンロードを実行します。  
「ダウンロード先」はデスクトップで構いません。

#### **SAPI 4.0 runtime support:**

Install the SAPI 4.0 runtime support below if you are using the Windows XP operating system and intend to use any of the speech components here with Microsoft Agent.

Also, install this SAPI 4.0 runtime support if you intend to use the L&H TTS3000 engines with the Microsoft Agent Genie, Merlin, Peedy and Robby characters. These characters are compiled to use the L&H TruVoice engine as the default speech output engine and the SAPI 4.0a runtime is necessary to set these characters' TTSMoDeID property to use the TTS3000 engines. Other Microsoft Agent characters may also require this SAPI 4.0 runtime support to set their TTSMoDeID property.

 [Download the Microsoft SAPI 4.0a runtime binaries \(824 KB exe\)](#)

- 4.ダウンロードしたファイルは右の2つであることを確認します。



- 5.先にspchapi.exeをダブルクリックしてインストールします。自動的にきめられた場所へインストールされます。

- 6.次に、lhttsjpj.exeをダブルクリックしてインストールします。自動的にきめられた場所へインストールされます。

7.運賃表示器アプリケーションを起動してみます。右図の赤丸で囲んだ部分が「音合使用可」という表示になっていればOKです。

8.放送用データを確認し、系統設定してリセットをクリックします。正常に放送データが取り込まれている場合には、右図黄色丸部分がクリックできる状態になりますので、クリックして以下のようなダイアログを出してください。



下の図中にある項目を各自で設定してください。

1.「Naoko(女声)」「Kenji(男声)」のいずれかを選択  
2.「ユーザー定義」になっているか確認

※注意：現在この部分の設定は、次回起動したときには反映されません。起動のたび、放送をご使用いただく時に調整していただく必要があります。

## 付録B.「ユーザーパネル」について

---

運賃表示器アプリケーションVer4では、一部機種を除き本体パネルを交換できるようになりました。このパネルは各基本機種に適合したものをペンぎん鉄道で配布していますが、特定の部分以外を除きユーザーが自由に編集することが出来ます。編集に使用するソフトは、ペイント系ソフトであれば特に問題ありません。（レイヤ機能を持つソフトであればなお可）

### ◎変更・修正してもいいユーザーパネル

- ・ペンぎん鉄道で配布しているパネル全般

※各自で配布しているユーザーパネルにつきましては、作者の許可を確認してください。

### ◎変更してはいけない部分

- ・パネルのサイズ
- ・コマや停名部品の配置場所の部分

### ◎ユーザーパネルとして認識される画像形式

- ・ビットマップ(\*.bmp)
- ・GIF(\*.gif)
- ・JPEG(\*.jpg)

### ◎作成したパネルを配布する場合

パネルを配布する際の形式としては2通りあります。

- 1.1枚だけ製作し、「OFF」「ON1」「ON2」のすべてにそのパネルを割り当てさせる
- 2.「OFF」「ON1」「ON2」用のそれぞれのパネルを製作して個別に設定させる。

### ◎説明書の添付

配布する際には、なるべく説明書(テキストファイル形式でOKです)を添付してください。

### ◎「整理券番号の自動表示機能」を使用させるかどうかの指示

「整理券番号の自動表示機能」（12ページ）を利用する仕様になっている場合は、添付する説明書に「整理券番号の自動表示機能をONにしてください」という一文を加えてください。

反対に、パネルに整理券番号や駅名を直接入れる仕様になっている場合は、添付する説明書に「整理券番号の自動表示機能をOFFにしてください」という一文を加えてください。

### ◎配布の形態について

ダウンロード配布を行う場合は、圧縮(LZH/ZIP)して配布するようにしてください。

# 付録C. 「整理券プラグイン」について

運賃表示器アプリケーションVer4では、整理券プレビュー機能を装備しています。この部分に整理券を表示させるには「整理券プラグイン」が必要です。

別製でご依頼される場合は以下の制限事項等がございますが、詳細につきましてはペンぎん鉄道へお問い合わせください。

## ◎整理券プラグインの制限事項

項目	制限事項
・券のサイズ	幅230ピクセル、高さ100ピクセルまでです。券の色は自由です。 注意書きや模様などを入れることもできます。 ※Windows95/98/Me/NT4でを使用することを考慮している場合でかつ、整理券番号や日付・会社名印字が画像による描画の場合、上記Windowsでは券の様式部分に重ねて描画(透過描画)することが出来ません。ただし、既存のフォントを使用して、整理券番号や日付・会社名を直接券に描画する仕様であれば、この限りではありません。
・停名の印字	制限事項等の詳細はお問い合わせください。印字は横のみです。
・日付の印字	特に制限はありません。縦横印字可能です。 書式は相談に応じます。
・時刻の印字	時刻は運賃切り替え時にしか更新しません。縦横印字可能です。 書式は相談に応じます。
・系統番号の印字	特に制限はありません。縦横印字可能です。
・整理券番号の印字	特に制限はありません。縦横印字可能です。
・停留所順番の印字	特に制限はありません。縦横印字可能です。
・バーコードおよびブロックコード印字	※バーコードやブロックコード印字を指定される場合には、使用できる系統番号や停留所の個数(データの行数)に制限があります。詳細につきましてはお問い合わせください。印字は横のみです。
・会社名印字(架空会社向け)	複数の会社名(子会社名等)をプラグインに保持させておくことが出来ます。券の内容は同一で、会社名だけを変更できるようにします。印字は横のみです。

なお、各自で作成したいという方には「整理券プラグイン開発キット」を用意しています。以下の条件を満たしている場合には各自で作成ができます。

・次のいずれかの言語、開発ツールでWin32APIを使用したDLL作成ができる方

- 1.ActiveBasic4.24
- 2.Microsoft Visual C++ 6.0
- 3.Borland C 5.5(BCC5.5)

※開発キットはHPへUPいたしませんので、ご希望の場合はペンぎん鉄道までお問い合わせください。そのとき、上記各言語用に基本的なソースコードを用意していますのでどの言語のものかをご指定ください。

※「バーコード」「ブロックコード」の描画ロジックは含まれておりません。

# 付録D.Eタイプ追加説明

運賃表示器アプリ（Eタイプ）は、整理券番号が可変する仕様となっています。既存の他機種と一部仕様が異なりますので、この機種をはじめで使用される場合には、こちらをあわせてご覧ください。

## 1.制限事項

- ・この機種では、「ユーザーパネル」をサポートしておりません。
- ・集中操作盤ウィンドウの「OFF」「ON1」「ON2」ボタンは使用できません。

## 2.データの入力について

- ・この機種で表示させるデータ（\*.hy3）は、以下のようにデータを入力してください

※サンプルのデータ（100.hy3）を各アプリへ添付していますのでそちらを参考にしてください。

		1列目		32列目		81列目		112列目
停名	整理券番号	1コマ目に表示する運賃	省略	32コマ目に表示する運賃	省略	1コマ目の整理券番号	省略	32コマ目の整理券番号

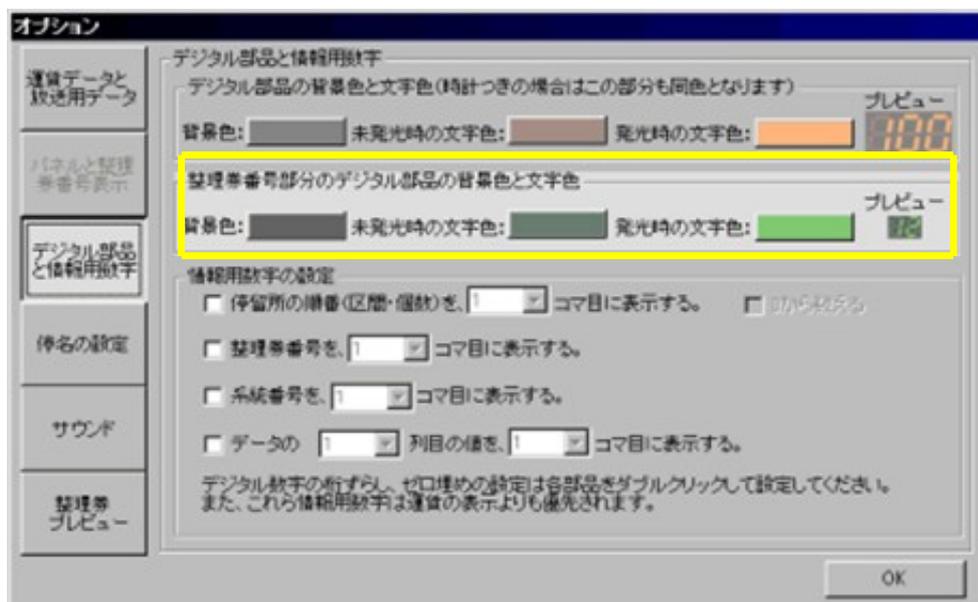
※整理券番号のデジタル部分を「なし（空白）」にしたい場合には、「0」と入力してください。

※整理券番号のデジタル部分を「0」にしたい場合には、「-1」と入力してください。

## 3.「オプションウィンドウ」について

・この機種では、整理券番号のデジタル部品の色を設定できるような仕様としているため「オプションウィンドウ」の構成を一部変更しています。

（右図黄色枠部分）



※ご不明な点は、ペンぎん鉄道へお問い合わせください。

# 付録E.停名部品へ「次は」の自動表示を設定する

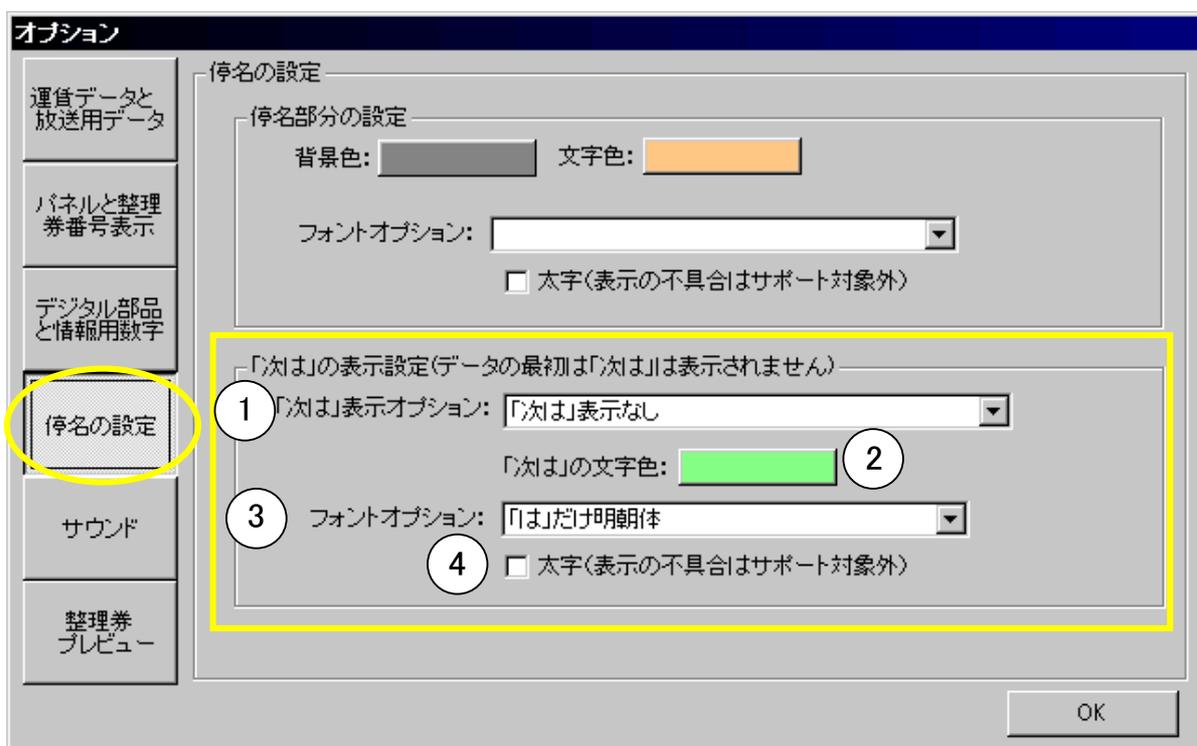
運賃表示器アプリのType4（SR1以降）、Type3（SR2以降）、Type6、停名表示器では、停名に「次は」を自動で表示させる機能が追加されました。既存の他機種と一部仕様が異なりますので、該当機種をはじめで使用される場合には、こちらをあわせてご覧ください。

## 1.制限事項・注意事項

- ・ 「次は」を固定した状態で、停名だけをスクロールさせることができません。
- ・ SR適用前の同機種の設定情報ファイル（\*.in4）を削除した上でSR適用後の機種へ更新してください。この作業を怠るとSR適用機種が起動できなくなることがあります。

## 2.「次は」表示の設定方法について

「オプションウィンドウ」の「停名の設定」項目に「次は」の表示設定が追加されています。



- ① 「次は」の表示の有無と形状を設定します。
  - ・ 「次は」表示なし→「次は」を表示しません(デフォルト)
  - ・ 「次は」を表示(「は」が小さい)→「次は」を表示しますが「次は」という表示の仕方をする。
  - ・ 「次は」を表示(同じ大きさ)→「次は」を表示しますが「次は」という表示の仕方をする。
- ② 「次は」部分の文字色を指定します。
- ③ 「次は」部分の書体を指定します。
- ④ 「次は」部分を太字にするかを指定します。

※ご不明な点は、ぺんぎん鉄道へお問い合わせください。